

2. 胃がん

○

○: 専門とするがん △: グループ指定により対応しているがん ×: 診療を実施していないがん
 ※別紙4に入力した内容が反映されています。
 ※診療を実施していないがんについて、表の記載は不要

集学的治療・標準的治療の提供体制
 ○: あり △: グループ指定により対応(地域がん診療病院のみ選択可) ×: なし ○

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数				治療の実施状況 (○: 実施可 / ×: 実施不可) / 昨年の実績 (あり/なし) ※平成25年1月1日~12月31日							各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ				
主な診療科名 (5診療科まで)	医師数	当該疾患を専門としている医師数	状況	手術		内視鏡的治療		放射線療法 体外照射	化学療法	光線力学療法		ページの見出しとアドレス ※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	掲載されている内容			
				開腹手術	腹腔鏡下手術	EMR	ESD						治療内容	治療実績	医師の専門分野	
1 消化器外科	11	3	状況 実績	○ あり	○ あり	○ あり	○ あり	○ あり	× なし	× なし	基本的には胃癌学会より提案された「治療ガイドライン」に従って治療を行っています。早期(Stage I)癌に対しては、機能温存および縮小手術を行い、進行癌に対しては、術中のリンパ節転移の結果に基づいて拡大リンパ節郭清手術を行っています。	ア イ	独立行政法人国立病院機構大阪医療センター http://www.onh.go.jp/surgery/html/sikkan/joubu.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり
2 消化器内科	9	9	状況 実績	× なし	× なし	○ あり	○ あり	○ あり	× なし	× なし	色素内視鏡・拡大内視鏡・特殊光観察を駆使し、食道癌・胃癌の早期発見に努めています。治療方針に関しては、超音波内視鏡などを用い、外科との合同カンファレンスで検討しています。内視鏡的粘膜切除術(EMR)のみならず、早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)にも取り組んでいます。放射線治療は、眼に見えない放射線という物質を巧みに操ることで腫瘍性疾患を消滅・縮小させるものです。うまく使えば手術や化学療法以上に素晴らしい力を発揮します。もちろん欠点もありますから、他の治療との連携が非常に重要です。そして、患者さんの意識があ	ア イ	独立行政法人国立病院機構大阪医療センター http://www.onh.go.jp/ge/index.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり
3 放射線治療科	2	2	状況 実績	× なし	× なし	× なし	× なし	× なし	○ あり	× なし	色素内視鏡・拡大内視鏡・特殊光観察を駆使し、食道癌・胃癌の早期発見に努めています。治療方針に関しては、超音波内視鏡などを用い、外科との合同カンファレンスで検討しています。内視鏡的粘膜切除術(EMR)のみならず、早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)にも取り組んでいます。放射線治療は、眼に見えない放射線という物質を巧みに操ることで腫瘍性疾患を消滅・縮小させるものです。うまく使えば手術や化学療法以上に素晴らしい力を発揮します。もちろん欠点もありますから、他の治療との連携が非常に重要です。そして、患者さんの意識があ	ア イ	独立行政法人国立病院機構大阪医療センター http://www.onh.go.jp/radiolog/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
4			状況 実績									ア イ	http:// http://			
5			状況 実績									ア イ	http:// http://			

グループ指定を受ける施設との連携状況 ※グループ指定を受ける場合のみ記載すること	
---	--

昨年の治療実績ありの疾患名 ※平成25年1月1日~12月31日 例: 胃がん 胃がん、食道がん
--